

韓国の同世代の視点に立ってみて

学校交流の報告



まず、韓国に到着した1日目には歓迎式や日韓文化交流、学校での給食、寮での生活を体験しました。そして、寮に泊まり、2日目には化学、体育、美術の授業体験、交流をしました。その中でも印象に残った3つのことを紹介します。1つ目は外国語学校ならではの国際的な意識の高さです。水原外国語高校には5つの言語の学科があり、各専攻語の国に修学旅行に行くことと教えてもらいました。部活も運動部は少ないけれど、日本文化探求クラブやミニ国連部など外国語学校ならではの部活が多く、国際的な視点を得られるような経験が多くできる学校だと感じました。2つ目は授業体験や交流を通してのさまざまな経験です。授業体験では、日本語科の1年生の生徒たちと化学の実験の班活動をしました。交流では、日本語科の生徒だけでなく、英日科の生徒たちともお互いの文化についてを紹介しあったり、伝統的な遊びを通して、お互いについてだけでなく、国のことについても知ることができました。どの学科の生徒もメインで学ぶ言語が日本語じゃなくても、自分の言葉を日本語にしようとして伝えてくれて、相手に寄り添う姿勢をととても感じました。バディの生徒たち以外の生徒とは短い時間でしかほとんど関わることはありませんでしたが、深い関係を築くことができたと思います。3つ目は、学校全体としての学習に対する意識の高さです。私が行ったとき韓国の大学入試テスト「スヌン」が近く、校内には受験生を応援するメッセージが張り出されていたり、どの生徒も夜遅くまで自習をしていると教えてもらいました。ここには書ききれないほど他にもたくさんの経験や発見がありました。

ホームステイの報告



私はホームステイで、韓国の家庭料理を食べさせてもらったり、観光地を案内してもらい、韓国の文化や日本との違いを学びました。

まず食文化の面では、一度の食事ですさまざまな料理が用意され、自分が食べられる分をとるのが基本だと感じました。日本だとすでに取り分けられていることが多かったり、取り分ける用の箸がありますが、韓国では自分の使っている箸を使い取り分けるのが普通だと教えてもらいました。食事のマナーの面でもお皿は持ち上げないなど日本との違いが多くありました。

そして私はバディの生徒と水原華城や景福宮、漢江、聖水に行きました。景福宮などの歴史的な建物の近くは自然が豊かなところもあったけれど、高層ビルがたくさん周りに建っていたのが衝撃的でした。韓服を着ていると入場料が無料だったりして、文化を体験しようと思える環境でした。移動手段は地下鉄、バス、タクシーが基本的でした。地下鉄では乗車券を買う際に保証金（500ウォン）を支払い、駅を出るときに返金してもらうというシステムがあり驚きました。最後に生活のスタイルなどで日本と違った点を紹介します。韓国では基本的にマンションに住んでる人が多く、湯船に浸かる文化があまりなかったり、キャッシュレス決済が普通だったりとさまざまな発見がありました。

姉妹校交流を通して学んだこと

私が今回の姉妹校交流の中で一番学びになったと思うことは、他国の同じくらいの世代の人が普段どんな環境で過ごして、どんなことを考えているのか知ることができたことです。これは、私が韓国に行く前に自分で立てた問いの一つでもあります。特に水原外国語高校の生徒は7時間授業が普通で、19時～23時までの自習時間があったりと学習に使う時間が多く、韓国の生徒はどんなことを考え生活しているか質問すると、水原の生徒に限らず大学進学について考えている人が多いと答えてくれました。こういったリアルな生活、考えを学べるのは姉妹校交流ならではの経験だと考えました。また、授業体験、交流外で廊下を歩いているときや給食を食べているとき、日本語科以外の生徒の人が日本語で声をかけてくれる人が多く、私は中国語科、フランス語科の生徒とも仲良くなり、そのときの会話で翻訳の画面を見せるだけでなく、自分の言葉を日本語で話そうとしてくれて、どうしてか質問すると日本の学生が来ると聞いて勉強したり、個人的に興味があって勉強したりしたと言っていました。これを聞いて、相手のことを知ろうとする大切さを学びました。この考え方、姿勢は私も取り入れたいと思いました。この4日間で他国の同世代の視点に立ってみて学んだことは、ネットで調べれば学べるかもしれないけれど、実際に現地でしか学べないものも多くあり、自分の中での考え方を変え成長につながった経験でした。